

日本型アカデミック・アドバイジングの挑戦⑤

第5回では、学生によるアカデミック・アドバイジングを取り上げる。日本の大学においても、学生同士による支援が導入され始めており、支援を受ける学生だけでなく、支援を担う学生に対する教育的意義も注目されている。今回は、学生によるアカデミック・アドバイジングについて、日本における可能性と課題を、愛媛大学学習支援コモンスの清水栄子氏に紹介してもらう。

学生アドバイザーをめぐる問い

日本においては、アカ

生をその担い手とするのであれば、その妥当性が問われることになる。

デミック・アドバイジ

では、学生アドバイザーを受けたうえで支援にあたる場合が多い。各大学によって異なるものの、履修選択にとどまらず、学習計画の策定や進路選択、大学生活への適

で、学生アドバイザーを

本稿では、この視点の支援を担っている。アカデミック・アドバイザーと連携しながら活動し、支援の提供範囲を広

役割を改めて問い直す必

要がある。

ここで問われるのは、

学生アドバイザーの導入と実態

なせ学生をアドバイザー

として導入するのかという点である。教育は大学

の責務であり、本来その

大きく異なっている。米国では、学生がピア・アドバイザーとして活動する仕組みが整備されてい

る。人手不足を理由に学

生支援が一定程度広がりを見せている。日本学生支援機構(JASSO、2023)の調査によれば、学生同士の支援を導入している大学は50・9

％にのぼる。支援の内容

としては、授業内外での学習サポート、履修相

談、留学生支援、学生生

活支援など多岐にわたっている。このうち、履修

相談や就職に関する助

言、学生同士の関係形成といった取組は、アドバ

イジングの一部として捉

えることができる。しかし、これらの支援は多く

の場合、個別の目的や組

織のもとで実施されており、アドバイジングとしての体系的に位置づけられて

いるとは言い難い。ま

た、米国のように体系化された研修や組織的位置づけが整備されているとは限らず、学生の選抜方

法や支援内容も大学によ

って異なっている。学生アドバイザーの導入を論

じるにあたっては、まず

こうした現状とその構造を踏まえる必要がある。

学生アドバイザーの位置

づけをめぐる課題

学生アドバイザーの位

置づけをめぐる課題は、その役割が大学における

た、米国のように体系化

された研修や組織的位置づけが整備されているとは限らず、学生の選抜方

法や支援内容も大学によ

って異なっている。学生アドバイザーの導入を論

じるにあたっては、まず

こうした現状とその構造を踏まえる必要がある。

学生アドバイザーの位置

づけをめぐる課題

学生アドバイザーの位

置づけをめぐる課題は、その役割が大学における

談、留学生支援、学生生

活支援など多岐にわたっている。このうち、履修

相談や就職に関する助

言、学生同士の関係形成

といった取組は、アドバ

イジングの一部として捉

えることができる。しか

し、これらの支援は多く

の場合、個別の目的や組

織のもとで実施されており、アドバイジングとしての体系的に位置づけられて

いるとは言い難い。ま

た、米国のように体系化

された研修や組織的位置

づけが整備されているとは限らず、学生の選抜方

法や支援内容も大学によ

って異なっている。学生アドバイザーの導入を論

じるにあたっては、まず

こうした現状とその構造を踏まえる必要がある。

学生アドバイザーの位置

づけをめぐる課題

学生アドバイザーの位

置づけをめぐる課題は、その役割が大学における

た、米国のように体系化

された研修や組織的位置

づけが整備されているとは限らず、学生の選抜方

法や支援内容も大学によ

って異なっている。学生アドバイザーの導入を論

じるにあたっては、まず

こうした現状とその構造を踏まえる必要がある。

学生アドバイザーの位置

づけをめぐる課題

学生アドバイザーの位

置づけをめぐる課題は、その役割が大学における

た、米国のように体系化

された研修や組織的位置

づけが整備されているとは限らず、学生の選抜方

法や支援内容も大学によ

って異なっている。学生アドバイザーの導入を論

じるにあたっては、まず

こうした現状とその構造を踏まえる必要がある。

学生アドバイザーの位置

づけをめぐる課題

学生アドバイザーの位

置づけをめぐる課題は、その役割が大学における

た、米国のように体系化

された研修や組織的位置

づけが整備されているとは限らず、学生の選抜方

法や支援内容も大学によ

って異なっている。学生アドバイザーの導入を論

じるにあたっては、まず

こうした現状とその構造を踏まえる必要がある。

学生アドバイザーの位置

づけをめぐる課題

学生アドバイザーの位

置づけをめぐる課題は、その役割が大学における

た、米国のように体系化

された研修や組織的位置

づけが整備されているとは限らず、学生の選抜方

法や支援内容も大学によ

って異なっている。学生アドバイザーの導入を論

じるにあたっては、まず

こうした現状とその構造を踏まえる必要がある。

学生アドバイザーの位置

づけをめぐる課題



学生アドバイザーの活用

い手として位置づける際

に、結果として補完的役割として機能している場合もみられる。

第3に、支援を受ける

学生と支援を担う学生の

双方にとつての教育的意

義が十分に整理されてい

ない点である。双方にと

つての学びとしての意義

が明確にされないまま導

入されている場合もある。

このように、学生アド

バイザーは導入されつつ

あるものの、その位置づ

けが不明確であるため

に、役割や機能が限定的

に理解されている状況にある。

第2に、学生アドバイ

ザーの活用が教職員支援

の代替として理解される

可能性がある点である。

学生アドバイザーの教

育的意義は、支援を受け

る学生だけでなく、支援

を担う学生の学びにも見

出される。

まず、支援を受ける学

生にとつて、学生アドバ

イザーは同じ立場を経験

したピアであることから

、心理的距離が近く相

談しやすい存在となる。

先輩学生として学びのモ

デルとなり得るだけでなく

、信頼関係が構築され

やすく継続的な関わりも

可能となる。こうした関

係性が、学生の学習への

適応と意思決定を支える

機能を果たしている。

このように、学生アド

バイザーの実践は支援す

る側・される側の双方に

学びをもたらす、独自の

教育的意義を持つ活動で

ある。

学生アドバイザーの機能

と役割

以上を踏まえ、学生ア

ドバイザーの主な機能は、4つに整理できる。

第1に、初年次学生の

大学生活への適応支援で

機能を実現している。

次に、支援を担う学生

バイザーは導入されつつ

あるものの、その位置づ

けが不明確であるため

に、役割や機能が限定的

に理解されている状況にある。

第2に、学生アドバイ

ザーの活用が教職員支援

の代替として理解される

可能性がある点である。

学生アドバイザーの教

育的意義は、支援を受け

る学生だけでなく、支援

を担う学生の学びにも見

出される。

まず、支援を受ける学

生にとつて、学生アドバ

イザーは同じ立場を経験

したピアであることから

、心理的距離が近く相

談しやすい存在となる。

先輩学生として学びのモ

デルとなり得るだけでなく

、信頼関係が構築され

やすく継続的な関わりも

可能となる。こうした関

係性が、学生の学習への

適応と意思決定を支える

機能を果たしている。

このように、学生アド

バイザーの実践は支援す

る側・される側の双方に

学びをもたらす、独自の

教育的意義を持つ活動で

ある。

学生アドバイザーの機能

と役割

以上を踏まえ、学生ア

ドバイザーの主な機能は、4つに整理できる。

第1に、初年次学生の

大学生活への適応支援で

機能を実現している。

次に、支援を担う学生

である。その役割は、補

完的かつ独自の機能を担

うものとして位置づける

必要がある。

学生アドバイザーが適

切に支援を提供するため

には、支援範囲を明確に

定めるとともに、活動に

必要な知識やスキルを習

得するための事前研修お

よび継続的な能力開発の

機会を組織として整備す

ることが求められる。

さらに、教職員との連

携体制を構築し、学生ア

ドバイザーが対応すべき

範囲と教職員につなぐべ

き場面を適切に判断でき

るようにする。そのため

には、リファアの基準や

相談対応のフローをあら

かじめ共有し、組織的に

運用していく。

学生アドバイザーの参

画を教育活動の一環とし

て位置づけ、その役割と

体制を整備することが、

持続的で質の高いアドバ

イジングの実現につながる。

これは、教職員を基

盤としつつ学生の関与を

生アドバイザーは教職員

を組み込むという、日本の

大学に適したアドバイジ

ングの一つの方向性を示

すものといえる。

(つづく)

愛媛大学 清水栄子